

## 秋田市食品ロス実態調査報告書

令和4年1月18日版

## 1 実施概要

■実施日時	令和3年11月18日（木）19日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター 旧焼却棟ステージ
■作業時間	8:30～17:00（昼食休憩1時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ16名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ6名（食品ロス調査）
■調査試料	<ul style="list-style-type: none"> <li>同調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ100袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。</li> <li>調査資料である100袋の地区別の収集数は、中央地区、東部地区、西部地区、南部地区、北部地区、河辺・雄和地区の6地区の人口構成比により以下のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>【11月18日】 中央地区（檜山11袋）、東部地区（東通10袋）、西部地区（新屋元町又は日吉町5袋）、南部地区（御所野8袋）、北部地区（下新城中野6袋、金足6袋）、河辺・雄和地区（河辺4袋）</li> <li>【11月19日】 中央地区（川尻6袋、大町6袋）、東部地区（添川4袋、旭川4袋）、西部地区（新屋勝平町6袋）、南部地区（上北手8袋）、北部地区（飯島12袋）、河辺・雄和地区（雄和4袋）</li> </ul> </li> <li>調査試料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100世帯分程度のごみ袋又は生ごみで100kg～150kg程度」としていることを踏まえ、上記100袋に含まれていた生ごみ約137.9kgとした。</li> </ul>

## 2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

## (1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

## (2) 作業内容

- ・調査対象となる100袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重さを計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手つかず食品（100%残存・50%以上残存・50%未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

### 3 調査結果

#### (1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は 356.5kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.6kg であった。地域別に見ると、①中央地区は 23 袋で 93.9kg、②東部地区は 18 袋で 55.4kg、③西部地区は 11 袋で 26.2kg、④南部地区は 16 袋で 53.0 kg、⑤北部地区は 24 袋で 98.8 kg、⑥河辺・雄和地区は 8 袋で 29.2 kg であった。

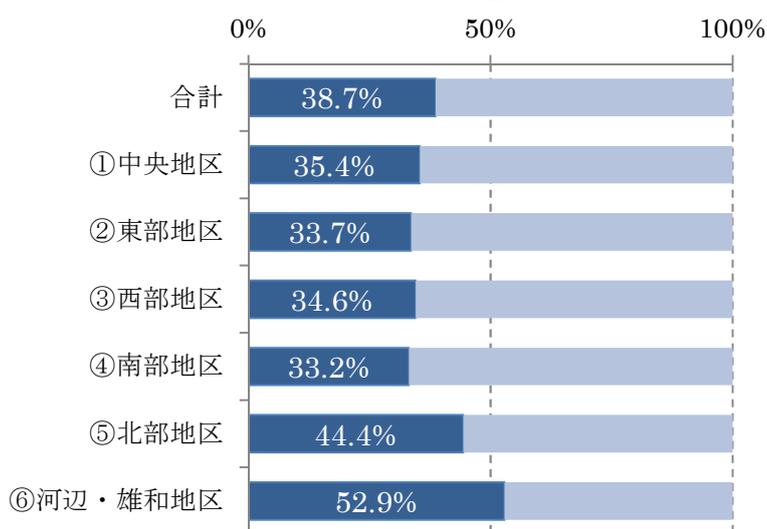
図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

	袋数(個)	重量 (kg)	容量 (L)	袋あたり	
				重量 (kg)	容量 (L)
合計	100	356.5	3260	3.6	32.6
① 中央地区	23	93.9	805	4.1	35.0
② 東部地区	18	55.4	560	3.1	31.1
③ 西部地区	11	26.2	315	2.4	28.6
④ 南部地区	16	53.0	565	3.3	35.3
⑤ 北部地区	24	98.8	765	4.1	31.9
⑥ 河辺・雄和地区	8	29.2	250	3.7	31.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計では 38.7%、地域別に見ると⑥河辺・雄和地区が最も高く 52.9%、次いで⑤北部地区の 44.4%、①中央地区の 35.4%、③西部地区の 34.6%、②東部地区の 33.7%、④南部地区の 33.2%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



(単位:kg)

	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C(=B/A)	食品廃棄物以外 D(=1-C)
合計	356.51	137.91	38.7%	61.3%
①中央地区	93.92	33.29	35.4%	64.6%
②東部地区	55.42	18.65	33.7%	66.3%
③西部地区	26.19	9.05	34.6%	65.4%
④南部地区	52.96	17.59	33.2%	66.8%
⑤北部地区	98.78	43.86	44.4%	55.6%
⑥河辺・雄和地区	29.24	15.47	52.9%	47.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

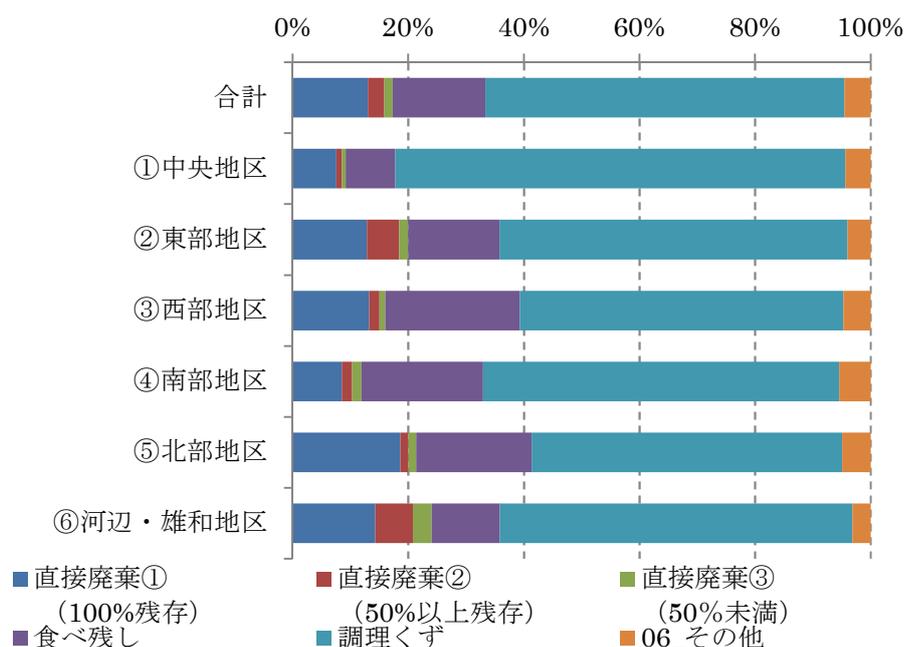
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表3）、6地区の合計では34.0%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く42.7%、次いで③西部地区の38.2%、⑥河辺・雄和地区の36.7%、②東部地区の35.0%、④南部地区の34.0%、①中央地区の19.5%となっている。地区ごとに食品ロスの割合は異なり、⑤北部地区の食品ロスの割合は、①中央地区よりも23.2ポイント高い。

直接廃棄に着目すると、6地区の合計では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち12.9%を占めており、⑤北部地区で18.2%と高く、次いで⑥河辺・雄和地区が14.1%、③西部地区が13.5%、②東部地区が13.0%、④南部地区が8.4%、①中央地区が7.4%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6地区の合計では15.9%、③西部区が23.7%と高く、次いで、④南部地区の20.7%、①中央地区が最も低く8.4%となっている。

図表3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	34.0%	12.9%	3.8%	1.4%	15.9%
①中央地区	19.5%	7.4%	3.1%	0.7%	8.4%
②東部地区	35.0%	13.0%	4.4%	1.6%	16.0%
③西部地区	38.2%	13.5%	0.0%	1.0%	23.7%
④南部地区	34.0%	8.4%	3.3%	1.6%	20.7%
⑤北部地区	42.7%	18.2%	3.7%	1.3%	19.6%
⑥河辺・雄和地区	36.7%	14.1%	7.7%	3.2%	11.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

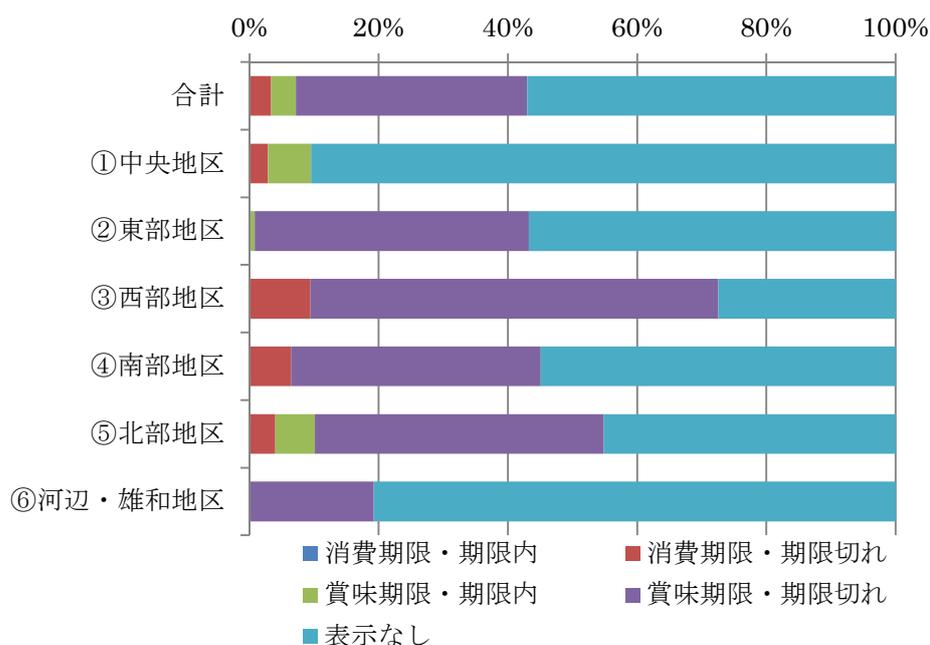
(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く57.0%であり、消費期限の表示があったものは3.4%（期限切れのみ）、賞味期限の表示があったものは39.6%（期限内が3.8%、期限切れが35.8%）となっている。

消費期限に着目すると、全ての地区で「期限切れ」となっており、③西部地区が9.4%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち3.8%、地区別に見ると①中央地区が最も高く6.7%となっている。

図表4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
	合計	0.0%	3.4%	3.8%	
①中央地区	0.0%	2.8%	6.7%	0.0%	90.5%
②東部地区	0.0%	0.0%	0.8%	42.4%	56.8%
③西部地区	0.0%	9.4%	0.0%	63.1%	27.5%
④南部地区	0.0%	6.4%	0.0%	38.6%	54.9%
⑤北部地区	0.0%	4.0%	6.1%	44.7%	45.2%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	19.2%	80.8%

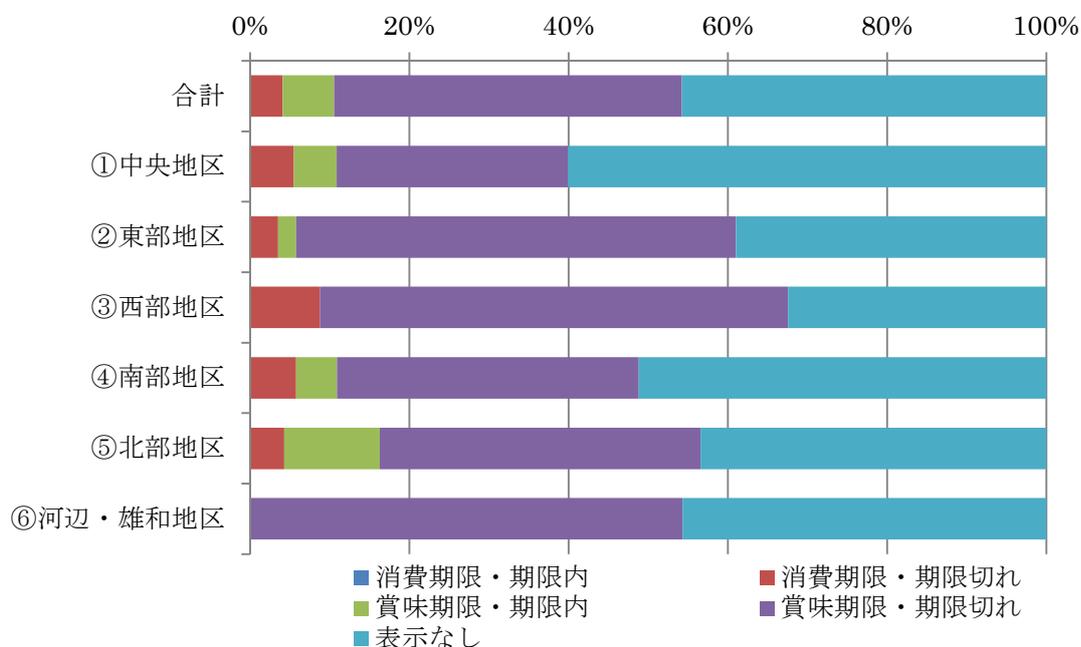
※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表5）、6地区の合計では「表示なし」が最も多く45.8%であり、消費期限の表示があったものは4.1%（全て期限切れ）、賞味期限の表示があったものは50.2%（期限内6.5%、期限切れ43.7%）となっている。

消費期限に着目すると、全て「期限切れ」となっており、③西部地区が8.8%と最も高かった。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち6.5%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く12.0%となっている。

図表5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	4.1%	6.5%	43.7%	45.8%
①中央地区	0.0%	5.5%	5.4%	29.0%	60.1%
②東部地区	0.0%	3.5%	2.3%	55.2%	39.0%
③西部地区	0.0%	8.8%	0.0%	58.8%	32.4%
④南部地区	0.0%	5.8%	5.1%	37.9%	51.2%
⑤北部地区	0.0%	4.3%	12.0%	40.3%	43.4%
⑥河辺・雄和地区	0.0%	0.0%	0.0%	54.3%	45.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

(4) 一人1日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和元年度の実績を参考に一人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると68.2g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が36.3g/人・日、食べ残しが31.9g/人・日と推計された。

図表6 一人1日あたりの食品ロス発生量（秋田市）

